



V9.0 バージョンアップ リリースノート

第2版



最終更新日：2018年7月29日

## はじめに

リリースノートでは SkyVisualEditor の主要な新機能や既存機能の機能強化に関する概要情報を提供します。新機能、機能強化には既存環境に影響を与える可能性があります。より詳細な情報については、リリース時に公開予定のヘルプサイトを参照ください。

ヘルプサイト : <https://doc.terrasky.com/display/SVE4JA/Home>

## 目次

1.	Lightning コンポーネント化対応.....	4
2.	Lightning Experience (LEX) デザインの有効化.....	6
3.	レスポンス対応（ページブロックセクション）.....	7
4.	API バージョン 42.0 に対応.....	8
5.	新元号への対応.....	8
6.	「ボタン」コンポーネントの配置上限数を 100 に拡張.....	9
7.	AppComponent「入力文字チェック」を検索画面テンプレートに対応.....	9
8.	Salesforce モバイルアプリ利用時のエラーメッセージ変更.....	10
9.	認証項目 reCAPTCHA の変更.....	10
10.	LEX、モバイルアプリケーションでの Visualforce ページ利用の有効化.....	11
11.	LEX 環境で「メモ&添付ファイル」、「活動履歴」関連リストのボタンが利用可能に.....	12
12.	LEX 環境でも「商談商品データテーブル」の商品追加機能が利用可能に.....	12
13.	手書きコンポーネントの書き直しボタンの非表示化対応.....	13
14.	<b>重要な更新</b> AppComponent 利用時の Apex コード内容の変更.....	14

## 1. Lightning コンポーネント化対応

SkyVisualEditor でデザインしたページを、Visualforce ページとしてだけでなく Lightning コンポーネントとしても出力が可能になりました。これにより、Lightning Experience (以下 LEX) 画面でも SkyVisualEditor で作成したページを、1 画面の 1 部品 (コンポーネント) として利用しやすくなります。Lightning コンポーネントの特徴であるコンポーネント間の連携にも対応しているため、例えば SkyVisualEditor で検索画面 (検索画面テンプレート)、詳細画面 (Salesforce レイアウト) の 2 つの Lightning コンポーネントを生成した場合、検索結果レコードと選択すると関連する詳細情報が表示される画面を作成することができます。

尚、生成した Lightning コンポーネントは、Lightning アプリケーションビルダー、および Lightning コミュニティビルダーでの利用が可能です。

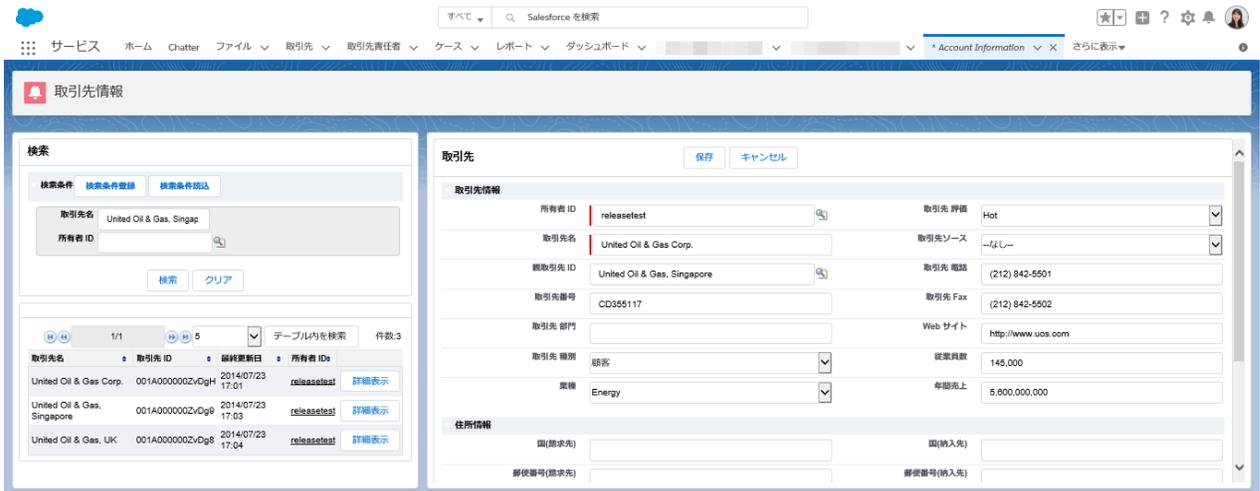


図 1-1 複数の SkyVisualEditor ページを配置した Lightning ページ

■ Studio 画面での設定方法

1. ページプロパティにて「Lightning コンポーネントを出力する」にチェック



図 1-2 Lightning Component プロパティ

2. カスタムボタン/カスタムリンクのプロパティにて「動作選択」を設定

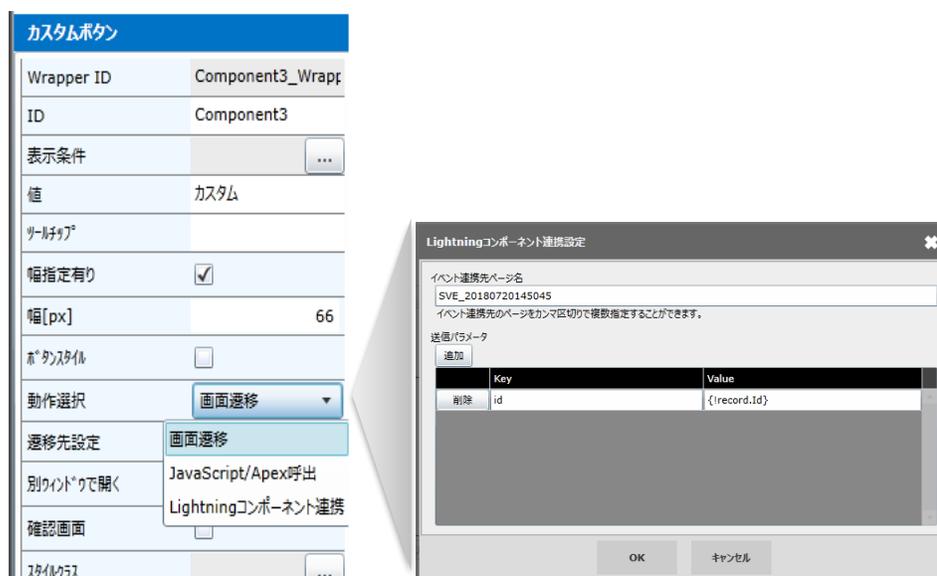


図 1-3 カスタムボタン プロパティ

## 2. Lightning Experience (LEX) デザインの有効化

LEX と同様のデザインで画面を作成することが可能になりました。

今までは Classic を前提としたデザインの画面を出力していましたが、LEX で利用しやすいデザインの画面が作成可能になります。



図 2-1 LEX デザイン有効化前



図 2-2 LEX デザイン有効化後

### ■ Studio 画面での設定

ページプロパティにて LEX デザインの「有効化」にチェック

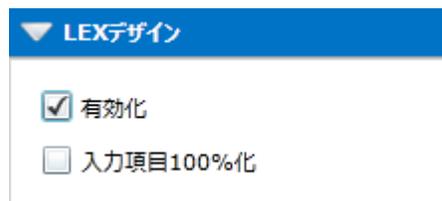


図 2-3 LEX デザイン プロパティ

### 3. レスポンシブ対応（ページブロックセクション）

「ページブロックセクション」コンポーネント内に配置する項目のレスポンシブ対応をしました。デスクトップ画面では2列、3列表示の画面が、モバイル端末で表示すると1列表示にすることが可能です。これにより、画面サイズの異なる端末毎に画面を作成せずに、1画面のみの作成で運用することが可能になります。

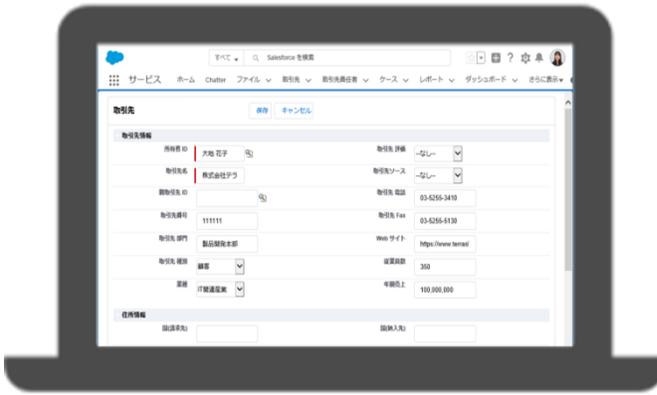


図 3-1 指定した画面幅以上の画面サイズの場合



図 3-2 指定した画面幅以下の画面サイズの場合

#### ■ Studio 画面での設定

ページプロパティにてページブロックセクションのレスポンシブ設定を「有効化」し、列が1列になる画面幅を指定。

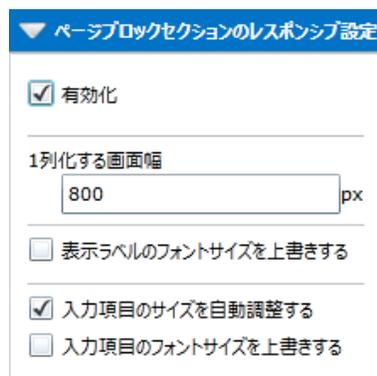


図 3-3 ページブロックセクションのレスポンシブ設定 プロパティ

## 4. API バージョン 42.0 に対応

Salesforce の API バージョン 42.0 に対応しました。SkyVisualEditor ページの新規作成、編集を行う際に、生成する Visualforce ページ、Apex クラスのバージョンが 42.0 になりますのでご注意ください。また API バージョンアップに伴い、下記関連リストが使用可能になりました。

- ファイル
- Live Chat のトランスクリプト

\* 「Live Chat のトランスクリプト」関連リストをご利用になる場合、事前に *Salesforce の Live Agent* 機能を有効化する必要があります。

## 5. 新元号への対応

SkyVisualEditor では元号に関する機能として本日日付を画面表示する「本日日付」コンポーネントがあります。元号改正に柔軟に対応できるように元号を保持する箇所をカスタムメタデータに変更しました。当対応により、元号変更時に SkyVisualEditor パッケージのアップグレードをしなくても、お客様環境で元号を設定変更することが可能になりました。



図 5-1 本日日付の元号表示

## 6. 「ボタン」コンポーネントの配置上限数を 100 に拡張

カスタムボタンをもっと多く配置したいとの要望がありました。そのため「ボタン」コンポーネントの配置上限数を 50 から 100 に拡張しました。

▼ 配置コンポーネント数	
オブジェクト項目数	0/ 2000(200)
セクションヘッダ数	0/ 3 (1)
ページアラウド数	1/ 50 (30)
ページアラウドセクション数	1/ 100 (30)
タブパネル数	0/ 5 (3)
パネルリスト数	0/ 50 (5)
テーブル数	0/ 30 (5)
関連リスト数	0/ 20 (10)
ボタンの数	0/ 100 (20)
空白パネル数	0/ 100 (50)
アქ行の数	2/ 500(100)
手書き項目数	0/ 5 (3)
Chatterフィード数	0/ 1
詳細パネル数	0/ 10 (5)

制限数増加  
 ※使用端末性能により上限数までの配置が不可能な場合あり

図 6-1 配置コンポーネント数

## 7. AppComponent 「入力文字チェック」を検索画面テンプレートに対応

SkyVisualEditor 標準 AppComponent の中に、Salesforce 画面上で入力した値を保存時ではなくカーソル移動時に入力チェックを行う「入力文字チェック」機能があります。この「入力文字チェック」機能が検索画面テンプレートの検索条件項目でも利用可能になりました。



図 7-1 検索条件項目への入力項目チェックの適用

## 8. Salesforce モバイルアプリ利用時のエラーメッセージ変更

Salesforce1 から Salesforce への名称変更に伴い、メッセージ文言を変更しました。

現在対象となるメッセージは、Classic 専用である「ページ割り当てテンプレート」画面を LEX、および Salesforce モバイルアプリ環境で利用した際のエラーメッセージのみです。

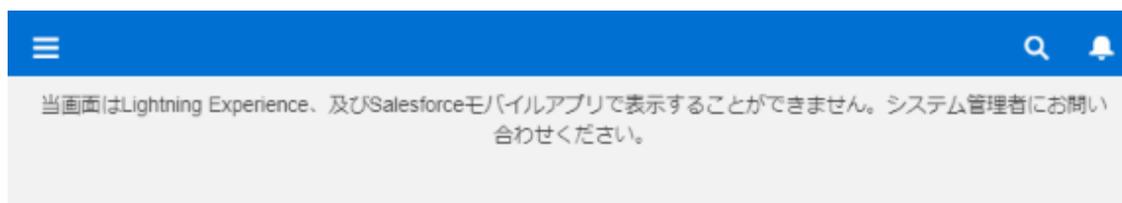


図 8-1 Salesforce モバイル で表示した際のエラーメッセージ

## 9. 認証項目 reCAPTCHA の変更

SkyVisualEditor Studio 環境の情報登録画面で表示している認証項目 reCAPTCHA を変更しました。対象となる画面は以下の 3 画面です。

- ユーザー登録
- グループユーザー登録
- ログインパスワード再発行

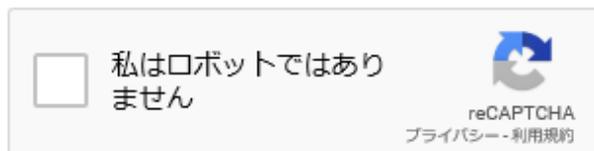


図 9-1 新しい reCAPTCHA 項目



図 9-2 V8 までの reCAPTCHA 項目

## 10.LEX、モバイルアプリケーションでの Visualforce ページ利用の有効化

LEX、モバイルアプリケーションで Visualforce ページを利用する場合は、Salesforce 内の Visualforce ページ設定項目『**Lightning Experience、Lightning コミュニティ、およびモバイルアプリケーションで利用可能**』をデプロイ後に都度有効化する必要がありました。

今回の対応により、SkyVisualEditor Studio 画面で LEX およびモバイルアプリケーションでの Visualforce ページ利用の有効化を設定することが可能になりました。

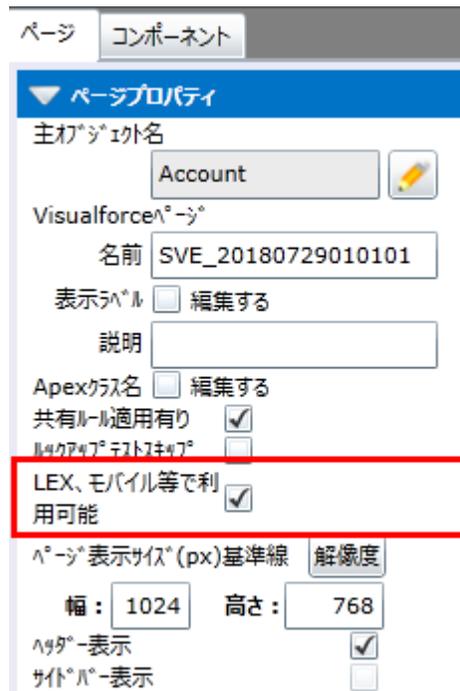


図 10-1 LEX、モバイルアプリケーションでの Visualforce ページの有効化 プロパティ

## 11.LEX 環境で「メモ&添付ファイル」、「活動履歴」関連リストのボタンが利用可能に

今までは、関連リストのボタンはクラシック環境でのみ利用可能でした。今回の対応で下記関連リストのボタンが利用可能になりました。

関連リスト	対象ボタン
メモ&添付ファイル	すべて表示
活動履歴	すべて表示

**活動履歴** すべて表示

件名	名前	関連先
Email		株式会社テラスカイ
Email		株式会社テラスカイ
Send Letter		株式会社テラスカイ

**メモ & 添付ファイル** すべて表示

種別	タイトル	関連先
ファイル	契約書	株式会社テラスカイ

図 11-1 関連リストの標準ボタンの有効化

## 12.LEX 環境でも「商談商品データテーブル」の商品追加機能が利用可能に

特殊なオブジェクトである商談商品データテーブルの商品追加機能はクラシック環境のみで利用可能でしたが、LEX 環境でも利用可能になりました。これからは LEX 環境で商談商品をレコードに追加することが可能です。

価格表名: Standard Price Book ▼ 商品追加 件数:1

	商品名	商品 ID	商談 ID
<span>行削除</span>	AA商品	AA商品	商談名4

図 12-1 商談商品データテーブルの商品追加機能の有効化

### 13.手書きコンポーネントの書き直しボタンの非表示化対応

タブレット等のデバイスでサインをする「手書きコンポーネント」を参照画面で利用した場合、「書き直し」ボタンが表示されてしまっていたため非表示にする機能を追加しました。Studio 画面からプロパティで表示／非表示が設定可能になっています。

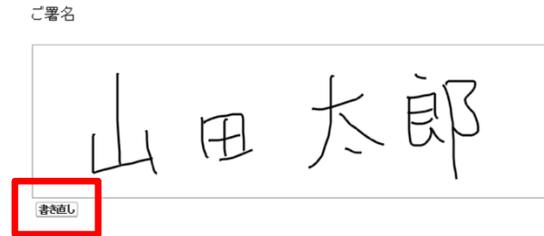


図 13-1 書き直しボタン有効時

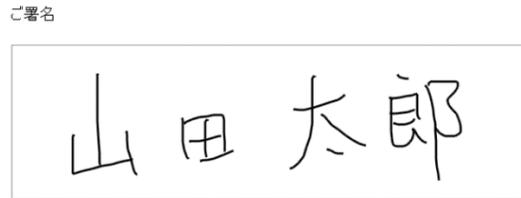


図 13-2 書き直しボタン無効時

- Studio 画面での設定

ページプロパティにて手書き項目の「書き直しボタン有り」のチェックを外す

手書き項目	
ID	Component1
位置座標(X)	208
位置座標(Y)	216
幅[px]	234
高さ[px]	54
書き直しボタン有り	<input type="checkbox"/>

図 13-3 ページブロックセクションのレスポンス設定 プロパティ

## 14. **重要な更新** AppComponent 利用時の Apex コード内容の変更

AppComponent 利用時に SkyVisualEditor で生成する Apex クラスコード内容が変更になりました。Apex コード量をより削減するために、AppComponent 初期化設定の出力形式を変更しました。

Apex コードを修正していますが、今回の対応による機能動作への影響はありません。

```
AppComponentProperty = new Map<String, Map<String, Object>>();  
Map<String, Object> tmpPropMap = null;  
tmpPropMap = new Map<String, Object>();  
tmpPropMap.put('id', "");  
tmpPropMap.put('top', "");  
tmpPropMap.put('left', "");  
tmpPropMap.put('width', "");  
tmpPropMap.put('height', "");  
.  
.  
AppComponentProperty.put('Component162', tmpPropMap);
```

図 14-1 V8 以前のコード

```
AppComponentProperty = new Map<String, Map<String, Object>>();  
AppComponentProperty.put('Component163', new  
Map<String, Object>{'id'=> "", 'top'=> "", ...
```

図 14-2 V9 のコード